

Young Islanders Forum Japan 開催

本誌編集部

本財団では、令和七年八月一日（月）、大阪・関西万博ブルーオーシャンドームにおいてNPO法人ゼリ・ジャパンと共催で「Young Islanders Forum Japan」を開催しました。本イベントは、離島で暮らす高校生が、日常のなかで

気づいた島ならではの学び・遊び・喜びなどを、自らの言葉で世界に発信すること、日本の離島の魅力を国内外にPRすることを目的としています。当日会場には、多くの方々が来場し、高校生ならではの目線で語られる島の魅力に、耳を傾けていました。

第一部 島の魅力発信

5つの島への招待状

第一部では、鹿児島県立徳之島高校の森太陽さん、長崎県立杵岐高校の池淵寛太さん、同五島海陽高校の泉和穂さん、同杵岐高校の山口晃輝さん、北

海道奥尻高校の板垣秋佳里さんの五人がリレー形式で登壇し、それぞれの島の魅力や、そこで得た経験、気づきなどを紹介しました。

森さんは、島の日常風景を伝統の島唄に乗せて映像化。豊かな自然と人々の温かさ、自由さが徳之島の魅力だと伝えました。池淵さんは、《青春》を切り口に、放課後に友人と行く海遊びや「杵岐山笠」などの祭事を紹介し、子どもから大人まで島の日常には《青春》が溢れている！と語りました。泉さんは、地域の人々に支えられた経験、魚や野菜をお裾分けする文化、何もないからこそ創意工夫次第で何でも創れる



今回発表した7人の高校生。後列左から時計回りに森 太陽さん、板垣秋佳里さん、泉 和穂さん、山口晃輝さん、安田瑛乃さん、池淵寛太さん、平間悠誠さん。

環境など、五島だから自分が成長できた、と話しました。山口さんは、クイズ形式で杵岐の特徴をアピール。神社の数やホテルの名所、独自の食文化などを紹介し、楽しみながら島の特色を知ってほしいと語りました。板垣さんは、ニュース仕立てで奥尻の魅力を説明。四季折々のイベントや離島留学を通じて得た経験、人々の温かさに触れ、不便さの中にこそ可能性がある！と、第一部を締めくくりました。

第二部 長崎県立対馬高等学校ユネスコスクール部「対馬の風、未来への種」

第二部では、長崎県立対馬高校の平間悠誠さん^{まゆうせい やすだあきの}と安田瑛乃さんが、部活動「ユネスコスクール部」の取り組みを紹介しました。ユネスコスクールに加盟している同校では、韓国語をはじめとする多言語教育の展開による国際交流、自然保護活動などによる持続可能な地

域づくりを進めています。

ユネスコスクール部では、絶滅危惧種「ツシマウラボシシジミ」や突然変異種「オウゴンオニユリ」の保全活動、漂着ごみの回収活動など、地域資源の保全・保護に取り組んでいます。特にツシマウラボシシジミの保護活動では、シカの食害により失われた食草を校内で育て、自然環境へ戻す試みが成果を上げています。二人は、「今後は、活動を継続するだけでなく、全国・世界への取り組みを広めていきたい」と、展望を語りました。

第三部 離島高校生の交流と未来に向けたメッセージ〜未来へかける、僕らの橋〜

第三部では、全国の離島高校生がオンラインで集い、島の未来や魅力、課題について語り合う「アイランダー高校生サミット（本号20頁参照）」の目的やプログラム内容などについて、同サミ

ットの実行委員会を務める高校生らが紹介。離島高校生の参加を呼びかけました。

その後、第一部・第二部で発表した全高校生が再度登壇し、島の未来についての座談会が行なわれました。今回のフォーラムを通し、島への想いはどう変化したか？という問いに対し、「島の魅力を再発見できた（板垣さん）」「島が大好きだと再認識できた（池淵さん）」などの答えがありました。島を面白くする第一歩は何か？という質問には、「島の文化や歴史を深く知ること（泉さん）」「日常をSNSで発信してみること（山口さん）」などが挙げられました。本イベントは、ファシリテーターを務めた（一社）サステイナブル教育開発機構 educore の入江潤さんの「このフォーラムが皆さんと離島の明日を照らす光となることを願います」との挨拶をもって、盛会裏に閉会しました。（大川）



本イベントのアーカイブ動画をご覧ください。